

## 第 40 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

<b>ゼミ名</b>	稲田ゼミ II
<b>チーム名</b>	E・I
<b>タイトル</b>	甲南独自の経済指標を作りたい
<b>テーマ群</b>	a) 理論・情報
<b>メンバー</b>	◎入江和敬 時末悠吾 木場信太郎 安福博行 永井道明
<b>研究計画内容</b>	<p>《はじめに》</p> <p>2002 年以降から続いていた景気拡大局面が 2007 年に終わり、2008 年の負債総額、約 64 兆円という史上最大の倒産劇へと至り、世界的な金融危機を招く事になったリーマンショックの影響で消費は落ち込み、企業の景況感、就職環境なども大きく悪化した。だが 2009 年から景気は回復基調にあるとされている。しかし、学生は実生活において世の中と同じような景況感をもったのだろうか？景気に敏感なのだろうか？消費行動などをアンケートから調査し、甲南生の経済指標(甲南生消費動向調査)を作り分析したいと思う</p> <p>《活動の過程》</p> <p>消費に関連する経済指標の分析から世の中の景気を分析する。具体的には家計調査、大型小売店販売統計と消費動向調査を本研究では採用した。消費者動向調査とは今後の暮らし向きの見通しや消費者の意識ついて把握し景気動向の判断資料とされるものである。家計調査とは家計の収入・支出・貯蓄・負債などを毎月調査している。これから一般家庭の支出の割合、小売の販売額の状況を調べる。次に学内の生協の売り上げについて着目してみる。学生の消費行動に景況感が作用しているならば生協の売り上げにもわずかながらも景気変動の影響がみられるはずである。そして甲南生に消費動向調査を基にしたアンケート調査を実施する。これから学生の消費行動や景況感、意識を探り、これまでの既存の調査結果と総合して景況感を検証してみたいと思う。最後にこれらを参考にして甲南独自の経済指標が作れるかどうか検証してみたいと思う。</p>